宮崎国際大学

2026年7月10日発行

No. 37

MIU 教育学部 News Letter

見たことのない景色を見て、見たことのない自分に出会う

教育学部長メッセージ



何を学び身につけることができたか、という問い

教育学部長　河原　国男

「何を学び、身につけることができたか」という問いが、どの大学でも重んじられています。その問いは、教員が心すべきこと（「教学マネジメント」）ですが、実は、学生の皆さんにも共有してほしいと思っています。以下の３つのことに留意しましょう。

第一に、思い起こすこと。学んだことをきちんと「引き出し」にいれ、必要に応じて「引き出し」思い起こせるようにしておくこと。新たに学んだこととどう関連づけられるかが、重要なのですが、その点はここでは問いません。つねに「新しい学び」では困りますね。「学び」は蓄積されたものの総体でなくてはならないでしょう。資料はファイルに整理されていますか。

第二に、人材養成の観点から整理すること。ただ単にこれこれの知識を得たというのではなく、教員としての必須の、教材理解力を身につけることができたというように、資質・能力として位置付けられること。「資質能力の３つの柱」にかかわって、「何ができるようになったか」という問いが、学習指導要領の中にありましたね。

第三に、第一、第二を踏まえて、自分もまた課題解決に貢献できる、と認識すること。その課題は、もちろん、自分たちが目指す進路の現場が直面している課題です。まず当の課題全体をきちんと知ること。その上で、特定の一分野の課題に対し、自分の得意分野で貢献できる、と伝えられることです。

今回のニュースレターに登場してくれた先輩たちは、在学中、「何を学び身につけることができたか」という問いに、以上を踏まえて、きちんと答えられたでしょう。

この問いには、実は重要な、見落とすことのできない副詞節が隠れているに違いない、と私自身は思っています。「自身はどんな困難に向き合いながら」です。このことについて、一端でも説明できれば、より深い信頼度を増すでしょう。

学生教職支援センターより

現役合格率 100%を支える教育力



教育学部 講師
田上 幸雅

昨年度、宮崎国際大学教育学部では、小学校教員採用試験において現役合格率 100%（25 名合格）を達成しました。

本学部では、教員採用試験に向けた体系的なカリキュラムを整備し、学生一人一人に対する手厚い支援を行っています。具体的には、学生教職支援センターによる対策講座を１年生から４年生までを対象に毎週月曜日３限に実施しているほか、４年生を対象として、元県教委などの外部講師による教員採用試験一次・二次試験対策講座を週３日、１・２限に開講しています。さらに、１年生には ICT を活用した基礎ゼミを毎週火曜日５限に、３・４年生には教養基礎力セミナーを毎週金曜日４限に実施するなど、段階的かつ継続的な支援体制を構築しています。

本学が目指しているのは、「教員になること」だけではありません。将来的には学校現場において指導教諭を務められるような、高い専門性と実践力を備えた教員の育成を目標としています。

また、教員を志す学生同士が同じクラスで学ぶ機会も多く、互いに刺激を受けながら切磋琢磨できる環境が整っています。「友達が頑張っているから、自分も頑張ろう」と感じながら成長していく学生も少なくありません。加えて、本学では学級担任のような役割を果たす「アドバイザー教員」を各学年に３名ずつ配置しており、進路指導だけでなく、欠席が続く学生へのフォローなど、一人一人に寄り添った支援を大切にしています。

大学入学後に大きく成長できること、それが宮崎国際大学教育学部の大きな特徴です。





MESSAGES FROM GRADUATES

令和７年度 宮崎国際大学教育学部卒業生



大学での学びや出会いが今の自分を支えている

高鍋西小学校　教諭
菊池 璃沙

大学で学んだことは、教員として働き始めた今、さまざまな場面で生かされていると感じています。模擬授業や教育実習で悩みながら授業を考えた経験は、今の自分の土台になっています。実際に働き始めると、授業づくりや学級経営の難しさを感じ、「大学時代にもっと学んでおけばよかった」と思うこともあります。しかし、工夫して準備した授業や子どもたちへの手立てが、笑顔や「できた！」という声につながったとき、大きなやりがいを感じます。学生のうちにしかできない経験や挑戦は、必ず教師としての力になります。

また、大学時代の友人は今でも支えとなる存在です。在学生のみなさん、仲間との時間を大切にしながら、自分らしい先生を目指して頑張ってください。



教職大学院で広がる実践と研究

兵庫教育大学 教職大学院
岩切 友敬

大学卒業後は、より専門的に教育について学びたいと考え、現在は兵庫県の教職大学院に進学しています。地元である宮崎県を離れて進学した理由の一つは、異なる地域の教育に触れ、多様な価値観や教育観を学びたいと考えたからです。現在は、宮崎県と兵庫県の地域教育の違いに関心をもち、地域性によって学校や子どもの学びにどのような特徴があるのかについて研究しています。教職大学院では、現職の先生方と一緒に指導案を検討する機会も多く、実際の教育現場の視点を学べることに大きな刺激を受けています。また、兵庫教育大学附属小学校のアフタースクール活動にも参加し、子どもたちと直接関わりながら学びを深めています。将来は、地域ごとの特色を理解しながら、子ども一人ひとりに寄り添える教員を目指しています。

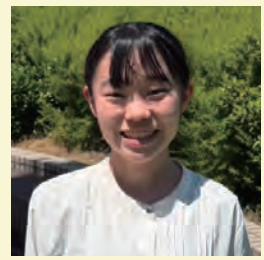


子どもたちと共に学ぶ毎日

社会福祉法人宮崎福祉会
保育士
田島 ひかる子

私は現在、２歳児クラスの担任として保育に携わっています。子どもたちは日々さまざまな姿を見せてくれ、思い通りにいかないことや悩むこともありますが、その分毎日が学びの連続です。子どもたちの成長を間近で感じられることや、笑顔を見られたときに大きなやりがいを感じています。

大学生活では、実習中の日誌作成を大切にしてほしいと感じています。実習で培った記録する力は、保育士になってから毎日記入する連絡帳や記録作成に役立っています。また、手遊びや隙間時間に楽しめる遊びを多く知っておくと、子どもたちとの関わりの幅が広がり、保育の引き出しにもなります。保育現場では、大学での学びが活かされる場面がたくさんあります。日々の学びや経験を大切にしながら、充実した大学生活を送ってください。



自分の可能性を狭めずに、専攻外の新しい世界へ

一般企業就職
井戸 由乃

現在は自動車部品の設計会社に勤務しています。秋に車の電子制御を担う組込みエンジニアとして配属される日に向け、現在は研修の日々です。理系出身の同期に圧倒されることもありますが、手厚い教育制度や先輩方の丁寧な指導のおかげで着実に知識を吸収できています。専攻外の分野へ挑戦できたのは、在学中に私の学びを温かく応援してくださった先生方のおかげです。また、教育学部ならではの教育実習や幼稚園実習といった貴重な実習を通じて、「社会で働くこと」を深く考える機会をもてたことが、現在の私の土台になっています。

週末は同期と宮崎にはないお店巡りを楽しむなど、プライベートも充実しています。皆さんもぜひ、自分の可能性を狭めずに様々なことに挑戦してください。

教育学部３年 AA

※AA（アドバイザー・アシスタント）とは、本学の学生が先輩として相談相手となり、アドバイザー教員とともに新入生を支援する制度です。



上段左から　濱口愛美（宮崎南高校出身）
八田瑞希（宮崎北高校出身）
中段左から　岩切里楠子（宮崎北高校出身）
舛永綾花（熊本国府高校出身）
布施憲汰郎（小林高校出身）
下段左から　甲斐緒乙（宮崎西高校出身）
森園恵実（宮崎南高校出身）
浅尾涼風（延岡星雲高校出身）
山路彩夏（宮崎南高校出身）

［青島レクリエーション］

新入生の笑顔のために　～留学生も交えたイベント運営で見つけた学び～

先日、新入生歓迎イベント「青島レクリエーション」に、AA として教育学部３年生９名で参加しました。今回私たちが企画したのは、障害物競走リレーや綱引き大会です。本学には留学生も多いため、誰もが楽しめるようにルールを工夫し、タイムテーブルの作成、備品の準備、安全確認等、仲間と何度も話し合って当日を迎えました。

しかし、当日は欠席者が出たことでチームの人数が合わなくなったり、大人数の学生を時間通りに誘導できなかったりと、人を動かすことの難しさを痛感しました。それでも、運営メンバーとすぐに状況を共有し、その場でルールを微調整するなど臨機応変に動くことで、無事にイベントをやり遂げることができました。

予定通りにいかない時にどう対応するか。多様な人たちが混ざり合う集団をどうまとめるか。今回のレクリエーションで得た気づきは、座学だけでは得られないものでした。何より、新１年生が全力で楽しんでくれたことを大変うれしく思います。ここで培った柔軟な対応力や周囲と協力する姿勢は、将来、教育現場で子どもたちと向き合う時や、社会に出てから必ず活きる「生きた学び」になったと感じています。

今後は、介護等体験や教育実習等を控えています。大学の講義を通してさらに知識を深めるとともに、実践的な学びのなかで高め合って頑張っていきます。











新入生の声



教員への夢に向かって

教育学部１年　小野　仁帝
（延岡高校出身）

私は小学校教員を目指し、宮崎国際大学教育学部に入学しました。大学生活が始まる前は新しい環境への不安もありましたが、先生方や先輩方、同級生の支えもあり、少しずつ大学生活に慣れてきました。

入学後に特に心に残っているのは青島レクリエーションです。さまざまな活動を通して、教育学部だけでなく国際教養学部の学生とも交流することができ、多くの新しい出会いがありました。また、先輩方に大学生活や授業について相談する機会もあり、不安を解消することができました。先輩方の温かい対応がとても印象に残っています。

現在は、毎日の講義にしっかり出席することはもちろん、それぞれの授業でどのような学びが得られるのかを意識しながら学修に取り組んでいます。これからも多くのことを学び、子どもたち一人ひとりに寄り添える小学校教員を目指して努力していきたいと思います。



夢を目指して

教育学部１年　今別府 水夏
（小林高校出身）

私は、園児や保護者から信頼される保育者になるという小学生の頃からの夢を叶えるために、宮崎国際大学に入学しました。大学の授業ではグループ活動や自分たちで考えて活動する機会が多く、毎回楽しく学んでいます。また、先生と学生の距離が近く悩みや不安を相談しやすいだけでなく、授業外でも世間話ができるほど温かい雰囲気があることも宮崎国際大学の特徴だと感じます。

入学前は不安でいっぱいでしたが、AA の先輩方や先生方のおかげで早々に不安も解消されました。さらに、ピアノのレッスン室などの施設に加えて、基礎ゼミなど学生を支えるサポートも充実しており、毎日楽しい大学生活を送っています。

これからの４年間、夢を叶えるために、人間関係や学修環境の整った宮崎国際大学で、先生方や同じ目標をもつ仲間とともに努力していきます。

幼保コースの学び

保育者養成プログラムは、保育者養成実践講座と忍ケ丘保育塾の２本の柱で実施、授業と実習、理論と実践の往還を通して、乳幼児の教育・保育を深く理解し子どもと家庭を支えるスペシャリストの育成を目指します。



MIUこどもパーティーを終えて
（保育者養成実践講座の取り組み）

教育学部４年　岩切 真夢
（宮崎日大高校出身）

宮崎山形屋四季ふれあいモールの通路で開催された「MIU こどもパーティー」に参加し、多くの学びを得ることができました。活動では、子どもたちが安心して楽しめるよう、後輩と協力しながら会場の準備や運営を行いました。子どもたちはそれぞれ興味や関心が異なるため、一人ひとりの様子を観察し、気持ちに寄り添った関わりが大切であることを実感しました。また、活動中は後輩と情報を共有しながら役割を分担することで、より円滑に運営することができました。この経験を通して、保育者には子どもへの関わりだけでなく、周囲の職員や仲間と連携しながら活動を進める力も必要であることを学びました。今回得た学びを今後の実習や保育活動に活かし、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりができる保育者を目指していきたいと思います。







保育者養成実践講座で広がった学び

教育学部２年　中村 瑞菜
（宮崎東高校出身）

講座では、乳児への関わりや造形活動、自然体験など、実践的な活動を多く経験することができました。オムツ交換や授乳、沐浴など人形を使って体験し、具体的な手法を学んだほか、絵の具を使い腕に動物をペイントするなどの造形活動や、大学周辺でフィールドビンゴを楽しむ自然体験ワークショップの活動もしました。実際に子どもが行う活動を、私たち自身が体験することで得られる視点や感動があると気づかされました。まさしく実践的な講座です。さらに「MIU こどもパーティー」では、来場者の見通しが立たない状況でも仲間と協力してやり遂げる達成感、子どもたちを笑顔にする喜びを味わうことができました。この講座で得た経験は、保育者を目指す私にとって学びの糧になっていると感じています。今後の実習や将来の保育に活かしていきたいです。





イベント情報



宮崎国際大学に行こう！
夏のオープンキャンパス

こんな方にぴったりなイベント！
- ☑大学がどんなところか見てみたい
- ☑大学生の先輩と話がしたい
- ☑個別に相談や見学がしたい

開催日程
7月12日(日)
8月9日(日)
10：00 スタート15：00 終了予定

イベントは予約制です。
本学のホームページより
申し込みをお願いします。

わかる！
1 大学を理解することができる！
初めてでも安心！
大学の概要から学部の詳細まで
詳しく説明します。
どんな大学？しっかり理解できる！



役立つ！
2 大学の授業を体験できる！
実際に入学したあとをイメージできる授業を体験できます！
自信をもって受験に挑める！



聞ける！
3 先輩たちと交流できる！
気になる入学前の不安やこれからの進路選びについて質問することができます。
なんでも質問してみよう！



宮崎国際大学
Miyazaki International University
教育学部

所　在　地：〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙 1405 番地
電話番号：0985-85-5931
ホームページ：http://www.miu.ac.jp/

大学HP

［ MIU 教育学部 News Letter 編集委員会　佐々木由喜子・松田昭憲・山本辰典 ］